

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズルームばんびーに阿見館		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	色々な活動プログラムがあり、子ども達が自分の好きな活動を選んで利用することが可能である。	初めての予定(お出掛け)などは、なるべく分かりやすいタイムスケジュールなどを作成し、・どういう流れで行動するか・まもるべきルールはなにか、など事前に知らせるようにしています。	お子さんの特性を良く理解しておくのが最重要になるため、とにかく情報共有が大事である。少しの気の緩みや曖昧な状態で放置しておくと思わぬ事故や怪我を招くため、常に連携・周知を徹底していかなければならない。
2	普段の活動を通して、お子さんに必要な支援が見えてきます。そのお子さんの障害特性に合った支援を提供することで、お子さんが落ち着いて生活出来るようなお手伝いをしています。	特に言葉でのコミュニケーションが難しいお子さんに対しては視覚的支援を重視するようにしています。	視覚的な見通し、ご本人の意思決定を尊重した選択活動、余暇の充実など、少しずつ段階を踏んで進めていけるようにしたいと考えています。
3	子ども達が笑顔でいられるような息抜きのある場であったり、保護者の方の息抜きの手助けになっている。また子ども達の生きにくい世界を少しでも生きやすく、保護者の方の悩みを少しでも減らしていけるお手伝いが出ている。	子ども達の成長とともに悩みや問題は変化し、問題が大きくなる場合もあります。その時に必要な信頼関係とそのお子さんの発達状態の把握になります。なので保護者の方と一緒に今の現状を良く理解し、一緒にどう支援をしていくかというモニタリングを大事にしています。	支援者も保護者の方も遠慮しては良い支援には繋がらないため、お互いが納得出来ない所は納得出来るように話し合いをする必要があります。そして一緒に取り組む事が重要になります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	問題が生じた時の対応が不十分であったり、スピーディーさに欠けていた。問題の認識が甘かった。	経験不足や危機管理能力の意識が低かった。	職員のスキルアップ。研修や事例検討会を定期的に行うなどして振り返りやこれからの支援に活かすようにしていかなければならない。
2	事業所の立地により、大雨の時や雪が降った場合営業時間を変更するなど保護者の方に不便を強いる場合が他事業所より生じている。	事業所の立地によりご不便を掛けている。	ご不便を掛ける時はとにかく連絡を早めにするなどしていきます。それと緊急時対応マニュアル・事故防止マニュアル等、マニュアル等の保護者の方の周知がまだまだ不十分のため、そちらの整備もしていきます。
3	保護者会や地域との関わりの機会が設けられていない。	職員が流動的な時期でもあり、なかなか取り組めなかった。	次年度には保護者との親睦を図れるように計画をしていきたいと思っています。